『みとう大学歴史講座』受講生募集

市の歴史や貴重な文化財・自然環境について、また日本の歴史の中で、郷土に関係する重要な人物・事件等について学ぶ講座を開催します。ふるってご参加ください。

主　　催　みとう大学歴史講座運営委員会
長登銅山文化交流館

講 座 数　全８回（８月から３月まで月１回）

開催日時　13時30分～15時00分

参 加 費　3,000円（資料代）（全７回分、県内史跡・博物館めぐりは別途費用徴収）

会　　場　美東センター・長登銅山文化交流館

募集人数　30人

申込方法　8月20日㈯までに、電話、葉書またはFAXで、郵便番号・住所・氏名・電話番号を、下記申し込み先までご連絡ください。

講座一覧

開催日	講座内容・講師（予定）	会場
8月25日㈭	雪舟と山水鳥瞰 小山良昌氏（毛利博物館館長）	美東センター
9月15日㈭	古代の美祢郡 池田善文氏（長登銅山文化交流館館長）	美東センター
10月20日㈭	大内文化と美祢 国守　進氏（元山口県立大学教授）	美東センター
11月17日㈭	長州藩の農兵について 土屋貞夫氏（元美祢市立図書館館長）	美東センター
12月15日㈭	長州遊撃隊 安富静夫氏（元下関市立図書館館長）	長登銅山文化交流館
1月19日㈭	秋芳の豪族 吉村　徹氏（元秋芳図書館館長）	長登銅山文化交流館
2月16日㈭	カエルのいろいろ話し 田原義寛氏（秋吉台エコ・ミュージアム）	長登銅山文化交流館
3月15日㈭	県内史跡・博物館めぐり ※行き先は会員で協議決定	―

申込・問合せ先　長登銅山文化交流館内　みとう大学歴史講座事務局宛
〔☎・FAX08396(2)0055、〒754－0213 美祢市美東町長登 610 番地〕

俳句と短歌

【美祢つぼみ句会】

夏草や　三日見ぬ間の　丈を見せ　久保　悦子
夏草を　刈り残したる　老いの腰　上利美代子

【美祢あさぎり句会】

夏草や　化石を探す　槌の音　中野　白堂
一球に　かける青春　汗みどろ　伊藤美代子

【美東俳句会】

緑陰を　発ち緑陰へ　縄電車　友永さだ子
緑陰や　古刹の庭で　憩う人　重本　栄子

【秋芳野火句会】

人住まぬ　庭に十薬　はびこりぬ　谷　やす子
蛍火や　水の甘いと　歌いかけ　岡崎　愛泉

【ホトトギス秋芳句会】

青梅の　目覚める様な　色をもぐ　柿村喜代美
泣き濡れし　合歓の花とは　あどけなく　小嶋かつら

【美祢短歌会】

話し方声の音質しおらしく
草書のような媼と会えり　西村　雪江
八十路われ今日も「ヨイショ」で朝が来る
ひと日ひと日と逝路の支度　江國　豊子
沖縄にて古酒なる「おもろ」求めきて
水割りチビリ夕飼のすすむ　内田シズヱ

【秋芳短歌会】

十年目に復活すべく休耕田に水を入れれば
空が映れり　長　安喜子
やうやくに黄砂も止みてすがすがし薄明の
山に満月没りゆく　平田　和男
軒下でグリンピースの皮むけば聞こえて
来るは被災地情報　前田　時博

病院だより27

知っておこう、肝臓のこと　その②

美祢市立美東病院
内科医師　久永　拓郎

前回に引き続き、肝臓病の検査と治療について掲載いたします。

3. 肝臓病に対する検査とは

病気が進行しない限り、医師であっても体の外から触るだけでは肝臓の異常は見つけにくいのが現状です。

肝臓病の時、症状がなくても血液検査では早くから異常を認めます。具体的にはAST、ALT（昔で言うGOT、GTP）、γ-GTP等で、現在どのくらいのスピードで肝臓が壊れているのか、またアルブミンというタンパク質の数値等で現在どのくらい肝臓が働いているかを調べます。肝臓病の原因を知るためにも、血液検査は欠かせません。

腹部エコーも重要な検査です。肝臓の硬さ（肝硬変にどのくらい近づいているか）、内部に腫瘍はないか、脂肪肝ではないか、その他多くの情報を知ることができます。その結果を見て必要に応じてCTスキャンなどのより詳しい検査を行うこともあります。

特に血液検査と腹部エコーは検診でもよく行われていますので、是非とも定期的に受けてほしいところです。現在他の病気で通院中の人であっても時折は検査が望ましいと思われますので、主治医の先生に個別にご相談くださいますようお願いいたします。

繰り返しになりますが、症状がない時からの検査・早期発見が重要なのです。

4. 肝臓病の治療とは

治療の目的は大きく2つ、①肝炎の状況が続いて肝硬変へと進行するのを予防すること、②肝臓がんの発生を抑制すること、です。無症状での治療となると違和感のある人もいらっしゃるでしょうが、これが大切なのです。治療法は原因や状態によって様々ですので、ここでは主なものを提示します。

C型肝炎について、最近ではインターフェロンという免疫力を高める注射薬が改良され、専用の内服薬と併用し長期に続けることで治癒率が上がっています。お世辞にも全く楽な治療とは言えず体力的に難しい人もおられますが、根本的治療となり得るため、できる限り推奨していきたいところです。インターフェロン治療ができない人の場合でも、肝臓の炎症を抑えるための内服薬・注射を継続することで先述の2つの目的がある程度達成されることが明らかになっていますので、根気強く続けていただくことが重要です。

B型肝炎は病態が実は少し複雑で、個々の病態によって変わってきますので、まずはかかりつけ医や専門医にご相談下さい。C型肝炎同様にインターフェロンの適応となる場合もありますが、ある程度の年齢を境にして、内服薬の継続で経過を見る人が多いです。注意点として、過去にB型肝炎にかかって治ったと言われた人でも、ウイルスの再増殖や急な発がんなどが報告されています。治療後の人、成人の一時的な肝炎で治ったという人でも定期的な検査を受けてください。

アルコールについては、一言、節酒・禁酒に尽きますが、これが難しいから肝臓が悪くなっていくわけです。肝臓を助ける薬がないわけではないのですが、酒を飲むために薬を飲むのでは本末転倒です。依存状態では本人の意思、家族の支えに加え、心療内科との連携など幅広いサポートが必要となります。

脂肪肝については基本的に減量が重要であり、先述の合併症を含めた治療となります。ただし、減量スピードや使用すべき薬などは個々の病態によって調整する必要があります。

5. 最後に

肝臓はまさに「沈黙の臓器」です。ご自分の肝臓からのメッセージに気付くかはご自身の心がけ次第です。とは言っても、実際難しいですよね。大事なのは定期的な検査です。何か疑問に思われたり、今まで検査をしたことのない人はぜひ一度お近くのかかりつけ医にご相談ください。それでは皆さんよろしくお願いいたします。

問合せ先　美東病院
（☎083396(2)0515）